



ジャパン・プレミア (2011年公開)

環境映画『地球のなおし方』 ※入場無料

Severn, The Voice of Our Children

企画:日本ペンクラブ環境委員会

9月24日(金) | 15:15—17:45 | 早稲田大学 小野梓記念講堂 | 東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分
都営バス早大正門バス停下車1分(高田馬場発) | 先着順
開場30分前

概要

昨夏オーガニック・ブームを巻き起こした映画『未来の食卓』の、ジャン＝ポール・ジョー監督による続編! 環境サミットで伝説のスピーチを行った12歳の少女、セヴァン・スズキのカナダでの生活と、日本とフランスで子どもたちの未来を救うために「食」を守り続ける人びとを追ったドキュメンタリー映画。

上映後にジャン＝ポール・ジョー監督のお話。

1992年、リオデジャネイロで行われた環境サミットでのスピーチで、世界中の人の心を動かした少女、セヴァン・スズキ。未来の子どもたちの生活を守るため、自分の発言に責任を持って行動に移すよう地球全体に呼び掛ける18年前のセヴァンの姿からこの映画は始まる。今回ジョー監督は、現在セヴァンが暮らしているカナダ、

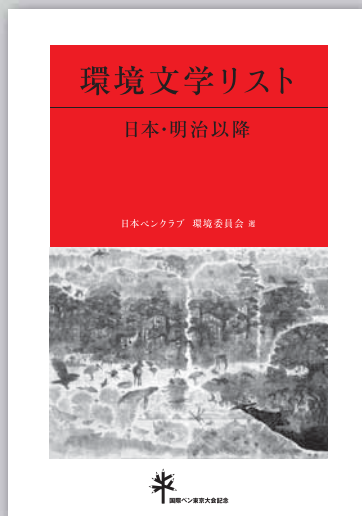
ハイダグアイ島の自然と共存する生活、福岡県で合鴨農法によってオーガニック米を作る古野農場の百姓百作の精神、地域の子どもたちのために161人の農婦が無農薬食材を育てる福井県の池田村、そして『未来の食卓』の題材にもなったフランス、バルジャック村のオーガニック給食と村のその後の様子を取材。セヴァンと同じまなざしで地球の未来を見つめる人びとの姿を追った。

セヴァンのスピーチの後、地球を取り巻く状況は変わっていない。しかし29歳となったセヴァンのお腹には新しい生命が宿った。危機的状況であることには変わらないが、今なら変化をもたらすことが可能だと、セヴァンは再度、訴えかける。



ジャン＝ポール・ジョー Jean Paul Jaud

国立イリ・リュミエール大学卒業後、1979年より監督として多くのテレビ番組の制作を行う。1984年のCanal+ (フランスの大手ケーブル放送局) の設立当初より、主なスポーツ番組の制作と中継を担当し、スポーツ映像に革命をもたらす。92年には自身の制作会社J+B Sequencesを設立。『羊飼いの四季』(“Les quatre saisons du berger”)、『マレーヌとオレロンの四季』(“Quatre saisons entre Marennes et Oleron”) など移りゆく四季の中で織り成される人々の暮らしを追ったドキュメンタリーを制作し、2004年自らが結腸ガンを患ったことを機会に、「食」という生きるための必須行為を取り巻く様々な事象を振り返り、「未来の食卓」を製作。



国際ペン東京大会記念 刊行物
環境文学リスト
日本・明治以降
日本ペンクラブ 環境委員会 選